SONY

ICレコーダー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ**、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

IC RECORDER

ICD-P50

この説明書は100%古紙再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

http://www.sony.co.jp/

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

- 本製品の不具合により、録音ができなかった場合、および録音内容が破損または消去された場合、録音内容の補償についてはご容赦ください。
- 本製品を使用したことによって生じた金銭上の損害、逸失利益および第三者からのいかなる請求につきましても、当社は一切その責任を負いかねます。
- 録り直しのきかない録音の場合は、必ず事前にためし録りをしてください。
- お客様が録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や、ICレコーダーの故障などによるデータの消滅や破損にそなえ、大切な録音内容は、必ず予備として、テープレコーダーなどに録音してください。
詳しくは、別紙の「ICD知っ得Q&A」をご覧ください。

⚠警告　安全のために

事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

- **安全のための注意事項を守る**
- **故障したら使わない**
- **万一異常が起きたら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

警告表示の意味

この取扱説明書では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険
この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告
この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意
この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号
火災　感電

行為を禁止する記号
禁止　分解禁止

⚠警告　火災　感電　**下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。**

内部に水や異物を落とさない
万一、水や異物が入ったときは、すぐに電池を抜き、お買い上げ店やソニーサービス窓口にご相談ください。
禁止

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない
火災や感電の原因となることがあります。とくに風呂場では絶対に使用しないでください。
禁止

⚠注意　**下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。**

内部を開けない
感電の原因となることがあります。内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。
分解禁止

大音量で長時間つづけて聞きすぎない
耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。とくにイヤーレシーバーで聞くときにご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。
禁止

電池についての安全上の ご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険　乾電池が液漏れしたときは

乾電池の液が漏れたときは素手で液をさわらない
液が本体内部に残ることがあるため、ソニーの相談窓口またはソニーサービス窓口にご相談ください。
液が目に入ったときは、失明の原因になることがあるので目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
液が身体や衣服についたときも、やけどやけがの原因になるので、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症やけがの症状があるときには医師に相談してください。

⚠警告

- 小さい電池は飲み込む恐れがあるので、乳幼児の手の届くところに置かない。万が一飲み込んだ場合は、窒息や胃などへの障害の原因になるので、直ちに医師に相談する。
- 機器の表示に合わせて＋と－を正しく入れる。
- 充電しない。
- 火の中に入れない。分解、加熱しない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯・保管しない。ショートさせない。
- 液漏れした電池は使わない。
- 使い切った電池は取りはずす。長時間使用しないときも取りはずす。
- 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を混ぜて使わない。

⚠注意

- 火のそばや直射日光のあたるところ・炎天下の車中など、高温の場所で使用・保管・放置しない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり傷つけたりしない。
- 指定された種類以外の電池は使用しない。

充電式の電池を使用する場合のご注意

- 本機では、充電式電池も使用できます。
- 充電池で満充電状態でも、本機に入れたときにバッテリー残量表示がフル状態を示さない場合があります。
- 電池の持続時間は、アルカリ乾電池よりも短くなります。
- 充電池を充電する際に本機から電池を抜く必要があるため、その間に別の充電池または乾電池を入れておかないと、充電のたびに時計設定が初期状態に戻ってしまいます。
- 充電器は常温で使用してください。
- 充電池および充電器は、以下の製品をご利用ください。
  －充電式ニッケル水素電池単4形：NH-AAA-4BF
  －ニッケル水素電池専用急速充電器：BCG-34HRES

日本国内での充電式電池の廃棄について

ニッケル水素電池は、リサイクルできます。不要になったニッケル水素電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。
充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については有限責任中間法人JBRCホームページ
http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html
を参照してください。

▶ 準備

準備 1：付属品を確かめる

梱包箱から取り出したら、次の付属品がそろっているか確認してください。

本体（1台）

エレクトレットコンデンサーマイクロホン（単一指向性ダイレクトインマイク）（1個）

イヤーレシーバー（1個）

ソニーアルカリ乾電池LR03（2個）

キャリングポーチ(1個)
USBケーブル（1本）、パソコン用アプリケーションソフト（CD-ROM）(1)
取扱説明書（本体用 1枚、アプリケーションソフト用 1枚）
早わかりカード（1枚）、ICD知っ得Q&A（1枚）
音声認識の手引き（1枚）、インストールまでの手順／本製品のご使用にあたって（1枚）
ソニーご相談窓口のご案内（1枚）

各部のなまえ

* 音量「大」の方向に凸点（突起）がついています。操作の目印としてお使いください。
** 凸点（突起）がついています。操作の目印としてお使いください。

準備 2：電池を準備する

使用できる電池と充電池

本機では、以下の乾電池、充電池をお使いになれます。

- 単4形アルカリ乾電池2本（付属）
- 充電式ニッケル水素電池単4形（別売り）：NH-AAA-4BF

充電器は、以下の製品をご利用ください。

- ニッケル水素電池専用急速充電器（別売り）：BCG-34HRES

ご注意
乾電池は電池のメーカーや種類によって性能のばらつきがあり、使用時間の目安に対して特に低温下では短くなる場合があります。

使用できない電池

マンガン電池

乾電池、充電池の持続時間

乾電池の持続時間*（ソニーアルカリ乾電池LR03(SG)を連続使用時）

	HQモード**	SPモード***	LPモード****
録音時	約11時間	約22時間	約22時間
再生時*****	約7時間30分	約11時間	約11時間

充電池の持続時間*（ソニー充電式ニッケル水素電池NH-AAAを連続使用時）

	HQモード**	SPモード***	LPモード****
録音時	約11時間	約19時間30分	約19時間30分
再生時*****	約7時間30分	約10時間30分	約10時間30分

* 電池持続時間は使用条件によって短くなる場合があります。
** HQモード：高音質モード
*** SPモード：標準モード
**** LPモード：長時間モード
*****音量つまみ「4」で内蔵スピーカーで再生した場合。

準備 3：電池を入れる

1 電池ぶたを矢印の方向へずらして開ける。

2 単4形アルカリ乾電池（付属）を2本入れ、ふたを閉める。

電池ぶたは落としたり、無理な力を加えたりするとはずれることがあります。そのときは上の図のようにはめ直してください。

お買い上げのあと、初めて電池を入れたときや、電池を抜いたまま長時間お使いにならなかった後に電池を入れたときには、日付表示が点滅します。
「準備4: 時計を合わせる」の手順2～3をご覧になり、時計を合わせてください。

電池を交換する時期

電池の残量がなくなってくると、表示窓の表示でお知らせします。
▭◢ が点滅したら、電池を交換してください。
▭ が点滅すると電源が切れ、操作ができなくなります。

ご注意

- 乾電池を交換する際、消耗した電池を抜いてから3分以内に別の充電池または新しい乾電池を入れないと、時計設定画面（日付表示が点滅）に戻ってしまうことがあります。
  この場合は時計を合わせ直してください。なお、録音した内容やアラーム設定は消えません。
- 乾電池を交換するときは、必ず2本とも新しい乾電池に交換してください
- 「ACCESS」表示が出ている間、または　OPRランプがオレンジに点滅している間は、メモリーへアクセス中です。アクセス中は、乾電池をはずしたり、ACパワーアダプターを抜いたりしないでください。データが破損するおそれがあります。
- 別売りのACパワーアダプターAC-E30L使用時は、電池残量表示は表示されません。

準備 4：時計を合わせる

アラーム機能を使用したり、録音した日付を記録するためには、本機の時計合わせをしておく必要があります。

1 時計設定画面を表示する。

2 年月日を合わせる。

3 時分を合わせる。

☞本機には電源スイッチはありません。表示窓には常に表示が出ています。

▶基本的な使いかた

用件を録音する

A～Dの4つのフォルダそれぞれに99件まで、合計396件の用件を録音できます。
●II録音/一時停止ボタンを押すと、自動的に一番最後の部分に録音が追加されるので、テープのように録音されていない部分を探す必要がなく、すぐに録音が始められます。例：

用件1	用件2	新しい用件	空きスペース

1 録音モードを選ぶ。

設定方法については、裏面「録音モードを設定する」をご覧ください。

2 録音したいフォルダを選ぶ。

設定方法については、裏面「フォルダを選択する」をご覧ください。

3 録音を始める。

* 表示/メニューボタンで設定した表示が表示されます。

4 録音を止める。

●II録音/一時停止ボタン
録音が一時停止します*。（OPRランプが赤く点滅し、「PAUSE」表示が点滅。）
もう一度押すと、一時停止が解除されます。(先程録音していた用件に続けて録音することができます。)

* 録音を一時停止して約1時間たつと、一時停止は解除され、録音停止になります。

▶■再生/停止ボタン
録音が解除され、今録音した用件のはじめから聞くことができます。

■停止ボタンを押す。
今録音した用件のはじめで停止します。

–I◀◀ レビューボタンを押す。
録音中または録音一時停止中に押し続けると、録音が解除され、今録音したところから早戻し（レビュー）再生されます。ボタンを離すと離したところから再生が始まります。

ご注意
用件分割を頻繁にすると早戻し（レビュー）再生になるまで時間がかかることがあります。

録音可能時間について

最大録音時間は、全フォルダ合わせて下記のとおりです。録音可能な残り時間は「残り時間」表示モードで確認できます。

HQモード*	SPモード**	LPモード***
29時間45分	79時間20分	130時間25分

* HQモード：高音質モード
** SPモード：標準モード
*** LPモード：長時間モード

録音するときのご注意

- **OPRランプが赤またはオレンジに点灯・点滅中は電池をはずしたり、ACパワーアダプターを抜かないでください。データが破損するおそれがあります。**
- **(マイク) ジャックにオーディオコードをつないでいるときは、内蔵マイクでの録音はできません。つないだ機器またはコードをはずしてください。**
- **録音中、本機に手などがあたったり、こすったりすると雑音が録音されてしまうことがあります。**
- より良い音質で録音したいときは、メニューの「MODE」（録音モード）でHQモードを選んでください。
- 録音を始める前に必ず電池残量表示を確認してください。
- 長時間録音途中の電池交換を避けたいときは、別売りのACパワーアダプターAC-E30Lをお使いください。
- 録音モードを混在して録音した場合、最大録音時間は任意に変化します。

メモリー残量表示について

残量が減ると、ひとつずつ消えていきます。

点滅

録音中に残り時間が5分を切るとメモリー残量表示が点滅します。「残り時間」表示モードの場合、残り時間が1分を切ると「残り時間」表示も点滅します。
メモリーがいっぱいになると、自動的に録音が止まり、警告音が鳴り、「FULL」表示が点滅します。不要な用件を消去してください。

録音した用件を聞く

あらかじめ録音してある用件を選んで聞くときは、手順1から操作してください。今録音したばかりの用件を聞くには、手順2から行ってください。

1 フォルダを選ぶ。

設定方法については、裏面「フォルダを選択する」をご覧ください。

2 用件番号を選ぶ。

* 表示/メニューボタンで設定した表示が表示されます。

3 再生を始める。

* 表示/メニューボタンで設定した表示が表示されます。

ひとつの用件の再生が終わると、次の用件のはじめで停止します。
フォルダ内の最後の用件の再生が終わると、その用件のはじめに戻って停止します。

その他の操作

再生の途中、その位置で停止する	▶■再生/停止ボタンを押す。（もう一度押すと、止めたところから再生が始まります。
今聞いている用件の頭に戻る	–I◀◀ ボタンを短く1回押す。*
前の用件、さらに前の用件に戻る	–I◀◀ ボタンを短く何回か押す。（停止中は押したままにすると、連続して戻ります。）
次の用件に進む	▶▶I+ボタンを短く1回押す。*
さらに次の用件に進む	▶▶I+ボタンを短く何回か押す。（停止中は押したままにすると、連続して進みます。）

* イージーサーチ（EASY-S）が「OFF」に設定されている場合の操作です。

イヤーレシーバーで聞くには

付属または別売りのイヤーレシーバーを (イヤホン) ジャックに差し込みます。スピーカーからは音が出なくなります。雑音が入るときは、イヤーレシーバーのプラグをきれいに拭いてください。

フォルダ内の用件を続けて聞くには—コンティニュー再生

メニューのコンティニュー再生(CONT)を「ON」に設定すると、フォルダ内の用件を連続して再生できます。（「設定を変える」参照。）

聞きたいところをすばやく探すには — イージーサーチ機能

メニューのイージーサーチ（EASY-S）を「ON」に設定すると、–I◀◀/▶▶I+ボタンで聞きたいところをすばやく探せます。（「設定を変える」参照。）

同じ用件を繰り返し聞くには — 1件リピート再生

再生中に▶■再生/停止ボタンを1秒以上押します。「⊂▶」が表示され、その用件が繰り返し再生されます。

- **普通の再生に戻すには**：▶■再生/停止ボタンを押します。
- **リピート再生を止めるには**：■停止ボタンを押します。

再生中に早送り／早戻しするには（キュー／レビュー）

再生中に–I◀◀/▶▶I+ボタンを押したままにして、聞きたいところで離します。

- **早送り（キュー）**：▶▶I+ボタン
- **早戻し（レビュー）**：–I◀◀ ボタン

最初は少しずつ早送り／早戻しされるので、1語分だけ戻したり、送ったりして聞きたいときに便利です。しばらくそのままにすると、高速での早送り／早戻しになります。早送り／早戻し中は、表示モードの設定に関係なく、カウンター表示になります。

☞最後の用件の終わりまで早送りすると

- 最後の用件の終わりまで送られると、「END」表示が5秒間点滅します。点滅中はOPRランプは緑に点灯しています。（再生音は聞こえません。）
- 「END」の点滅とOPRランプが消えると最後の用件の頭に戻って止まります。
- 「END」の点滅中に–I◀◀ ボタンを押したままにすると、早戻しされ、離したところから再生が始まります。
- 最後の用件が長時間の用件の場合で、用件中の後ろの方を探して再生したい場合は、▶▶I+ボタンを押し続けていったん用件の最後まで早送りして、「END」表示の点滅中に–I◀◀ ボタンを押して聞きたいところまで早戻しして探すと便利です。
- 最後の用件以外の場合は、次の用件の頭に送ってから再生中に早戻しすると素早く探せます。

▶いろいろな録音方法

用途に合わせてマイクを使う

☞ **外部マイクと内蔵マイクの使い方について**
- 内蔵マイクは標準感度、全指向性マイクロホンです。口述録音や会議の録音では内蔵マイクのご使用をおすすめします。
- 付属の外部マイクは高感度で、周囲の音を抑え、目的の音をクリアに録音する単一指向性マイクロホンです。講義、講演会の録音やインタビューの録音のときは、外部マイクのご使用をおすすめします。話者との距離が遠い場合は、マイク感度を「H（高感度）」に設定することで、より上手な録音ができます。

内蔵マイクの感度を切り換える

メニューでマイク感度設定を切り換え、用途に合わせて、内蔵マイクの感度を選ぶことができます。

1 表示/メニューボタンを1秒以上押してメニューモードに入る。

2 –I◀◀または▶▶I+ボタンで「SENS」を選び、▶■再生/停止ボタンを押す。

3 –I◀◀または▶▶I+ボタンで、「H（高感度）」または「L（低感度）」を選び、▶■再生/停止ボタンを押す。

4 表示/メニューボタンを押す。
設定が有効になり、通常の画面に戻ります。

H（高感度）：小さな音を大きくするとともに、全体の録音レベルを最適化することでバランスのとれた録音を実現します。広い会議室での録音など、遠くの音や小さい音を録音するときに使用します。

L（低感度）：口述録音など、マイクを口元に近づけて録音したり、近くの音や大きい音を録音するときに使用します。

外部マイクで録音する

本機の（マイク）ジャックに付属または別売りのミニプラグ付きマイクロホンをつなぎます。外部マイクをつなぐと、内蔵マイクは自動的に切れ、外部マイクの音を録音します。プラグインパワー対応のマイクを使うと、マイクの電源は本機から供給されます。

他の機器を使って録音する

他の機器の音声を録音する

他の機器の音声を録音するには、本機の（マイク）ジャックと他の機器（テープレコーダーやテレビ、ラジオなど）のイヤホン端子を、別売りのオーディオコード（抵抗入り）を使ってつなぎます。

ご注意
ICレコーダーへの入力に抵抗なしオーディオコードを使用すると音声が途切れて録音されることがあります。必ず抵抗入りオーディオコードをお使いください。

☞ **電話の音声を録音する**
イヤホン型マイク（ECM-TL1）（別売り）を使って、本機で固定電話や携帯電話の録音ができます。また、テレホンレコーディングアダプター（別売り）を使って 固定電話の音声が録音できます。詳しくは、お使いになるアダプターなどの取扱説明書をご覧ください。

本機の音声を他の機器で録音する

他の機器で本機の音声を録音する場合は、本機の（イヤホン）ジャックと他の機器の音声入力端子（ミニプラグ）につなぎます。

その他の接続方法については、別紙の「ICD知っ得Q&A」をご覧ください。

録音モードを設定する

メニューで、用途に応じて録音モードを設定します。
HQ: 音質を重視する大切な録音（初期設定）。
SP: 通常の録音。
LP: 音質を重視しない簡易な録音。

1 表示/メニューボタンを1秒以上押してメニューモードに入る。

2 ▶■再生/停止ボタンを押す。
「HQ」または「SP」、「LP」が点滅します。

3 –I◀◀または▶▶I+ボタンで選択したい録音モードを選び、▶■再生/停止ボタンを押す。

4 表示/メニューボタンを押す。
設定が有効になり、通常の画面に戻ります。その後3秒以上何も操作をしないと、現在時刻表示となり、設定された録音モードが表示されます。

追加録音／上書き録音する

追加録音／上書き録音を利用する

工場出荷状態では、誤操作を防ぐために追加/上書き録音は利用できません。追加/上書き録音をする場合は、以下の手順にしたがって設定を変更してください。

1 表示/メニューボタンを1秒以上押してメニューモードに入る。

2 –I◀◀または▶▶I+ボタンで「REC-OP OFF」を選び、▶■再生／停止ボタンを押す。
「OFF」が点滅します。

3 –I◀◀または▶▶I+ボタンで「ON」を選び、▶■再生／停止ボタンを押す。

4 –I◀◀または▶▶I+ボタンで「ADD」（追加録音）または「OVER」（上書き録音）を選び、▶■再生／停止ボタンを押す。
設定が変更されます。

5 表示/メニューボタンを押す。
設定が有効になり、通常の画面に戻ります。

追加録音／上書き録音できない設定に戻すには
手順3で「OFF」を選び、▶■再生／停止ボタンを押します。

用件に追加/上書き録音する

メニューで「ADD」（追加録音）が選ばれている場合
新しく追加した内容は、再生中の用件の最後に再生中の用件の一部として追加されます。

用件3 用件4
用件3再生中
用件3 用件4
追加録音後 追加した内容

メニューで「OVER」（上書き録音）が選ばれている場合
用件の中の指定した場所から、新しい用件を上書き録音できます。すでに録音してあった部分は消去されます。

1 再生中に●II録音/一時停止ボタンを押す。
「REC」と「ADD」または「OVER」が点滅し、録音スタンバイ状態になります。

2 「REC」と「ADD」または「OVER」が点滅中に、●II録音/一時停止ボタンを押す。
「REC」が点灯表示に変わり、「ADD」または「OVER」が3回点滅します。OPRランプは赤に変わり、再生中の用件への追加録音または上書き録音が始まります。

3 ■停止ボタンを押して録音を止める。

ご注意
- メモリー残量が不足している場合は追加/上書き録音ができません。
- 追加または上書き録音する部分は、再生中の用件と同じ録音モード（HQ、SP、LP）で録音されます。

音がしたとき自動的に録音を始める—デジタルVOR機能

メニューでデジタルVOR（自動録音スタート）を「ON」にすると音がしたときに自動的に録音できます。
ON: ある大きさ以上の音をマイクが拾うと自動的に録音が始まり、音が小さくなると録音が止まります。
OFF: ●II録音/一時停止ボタンで録音を開始、停止します。（初期設定）

1 表示/メニューボタンを1秒以上押してメニューモードに入る。

2 –I◀◀または▶▶I+ボタンで「VOR OFF」（または「VOR ON」）を選び、▶■再生/停止ボタンを押す。
「OFF」（または「ON」)が点滅します。

3 –I◀◀または▶▶I+ボタンで「ON」または「OFF」を選び、▶■再生/停止ボタンを押す。

4 表示/メニューボタンを押す。
設定が有効になり、通常の画面に戻ります。
VORを「ON」に設定し、●II録音/一時停止ボタンを押して、録音を始めると、「VOR」が表示されます。
音が小さくなり録音が自動的に一時停止すると、「VOR PAUSE」が点滅します。

ご注意
VOR機能は周囲の環境に左右されます。状況に合わせて、メニューでマイク感度設定を「H（高感度）」または「L（低感度)」に切り換えてください。マイク感度を切り換えても思いどおりに録音できないときや、大切な録音をするときは、VORを「OFF」にしてください。

▶いろいろな編集、再生、設定方法

フォルダを選択する

用件の録音、再生をするフォルダを、A~Dの4つのフォルダから選ぶことができます。

1 表示/メニューボタンを1秒以上押してメニューモードに入る。

2 –I◀◀または▶▶I+ボタンで「FOLDER」を選び、▶■再生/停止ボタンを押す。

3 –I◀◀または▶▶I+ボタンで、希望するフォルダを表示させ、▶■再生/停止ボタンを押す。

4 表示/メニューボタンを押す。
設定が有効になり、通常の画面に戻ります。選択したフォルダが表示されます。

録音した用件を消去する

1件ずつ消去する

消したい用件だけ消去することができます。
用件を消すと、次の用件が自動的に繰り上がるので、間に空白部分は残りません。

消去前
用件1 用件2 用件3 用件4
用件3を消去する
用件1 用件2 用件3 用件4
消去後 用件の番号が繰り上がる

1 消去ボタンを1秒以上押す。
確認音が鳴り、用件番号と「ERASE」が点滅し、消去したい用件が10回再生されます。（アラーム音を「OFF」にしている場合は、確認音は鳴りません。）

2 「ERASE」の点滅中に消去ボタンをもう1度押す。
用件が消去され、以降の用件番号が繰り上がります。
(例えば、用件3を消去した場合、用件4だったものが用件3になります。消去が完了すると、消去した用件の次の用件の頭で停止します。）

途中で消去をやめるには
手順2の前に■停止ボタンを押します。
他の用件を消去するには
手順1と2を繰り返します。
ひとつの用件の一部分だけ消去するには
用件分割で消去する部分としない部分に分け、消去したい部分の用件番号を選んで手順1と2の操作をします。
ご注意
一度消去した内容はもとに戻すことはできません。

フォルダの中身を一度に消去する

ひとつのフォルダの中のすべての用件を一度に消去することができます。

用件1 用件2 用件3 空きスペース 用件1 用件2
フォルダA フォルダB
空きスペース 用件1 用件2

1 フォルダを選ぶ。
詳しくは、「フォルダを選択する」をご覧ください。

2 ■停止ボタンを押しながら、消去ボタンを1秒以上押す。
用件番号と「ALL ERASE」が10秒間点滅します。

3 点滅している間に消去ボタンを押す。

途中で消去をやめるには
手順2の前に■停止ボタンを押します。

用件をふたつに分ける–用件分割

録音または再生中、用件分割をするとひとつの用件がふたつに分かれ、その場所に新しい用件番号が付きます。会議など1件の用件が長時間になったとき、用件分割をすると、再生したい場所がすばやく探せて便利です。分割した用件が入っているフォルダの用件数が99件になるまで用件分割できます。

ご注意
- 分割した用件は再結合できません。用件を結合するには、付属のアプリケーションソフトをお使いください。
- 頻繁に用件分割をすると、分割ができなくなることがあります。
- アラーム設定した用件を分割すると、分割した後ろの用件にはアラーム設定は残りません。
- 用件のはじめから1秒までの間では用件分割はできません。

録音または再生中に、用件を分割をしたいところで分割ボタンを押す。
- **録音中に押したときは**：押したところから新しい用件番号がつき、その番号と「DIVIDE」が3秒間点滅します。ふたつの用件として録音されますが、途切れず続けて録音されます。
  ☞ 録音一時停止中でも用件分割できます。

  用件1 用件2 用件3
  用件分割
  続けて録音される
- **再生中に押したときは**：押したところで用件が分割され、新しい用件番号と「DIVIDE」が3回点滅します。以降の用件番号はひとつずつ送られます。

用件分割した部分を探して聞くには
分割した用件を1件として用件番号がついているので、用件番号を探すときと同様に–I◀◀または▶▶I+ボタンを押して再生する部分を探してください。
☞ **分割した用件を続けて聞くには**
メニューのコンティニュー再生（CONT)で「ON」を選ぶと便利です。

用件を別のフォルダに移動する–ムーブ

録音済みの用件を他のフォルダに移動させることができます。（例：フォルダAの用件3をフォルダCに移動する場合）

1 他のフォルダに移動させたい用件を表示させる。

2 表示/メニューボタンを1秒以上押してメニューモードに入る。

3 –I◀◀または▶▶I+ボタンで「MOVE」を選び、▶■再生/停止ボタンを押す。
移動先のフォルダが点滅します。

4 –I◀◀または▶▶I+ボタンで移動先のフォルダ（この場合は「C」）を選ぶ。

5 ▶■再生／停止ボタンを押す。
用件が移動先のフォルダに移動します。

6 表示/メニューボタンを押す。
通常の画面に戻ります。

途中でフォルダの移動をやめるには
手順5の前に■停止ボタンを押します。
ご注意
ムーブ機能を使って用件を移動すると、もとのフォルダからは用件がなくなり、移動先のフォルダのみに用件が入ります。（用件をコピーする機能ではありません。）

希望の時刻に再生を始める –アラーム再生

あらかじめ設定した時刻にアラーム音とともに用件を再生することができます。特定の日付を指定したり、毎週同じ曜日や毎日同じ時刻に再生するように設定できます。アラーム音だけを鳴らすこともできます。

1 再生したい用件を表示させる。

2 アラーム設定を「ON」にする。
① 表示/メニューボタンを1秒以上押してメニューモードに入る。
② –I◀◀または▶▶I+ボタンで「ALARM OFF」を選ぶ。
（すでにその用件がアラーム設定されていると「ALARM ON」が表示されます。）
ご注意
時刻設定をしていない場合や、用件が録音されていない場合はアラーム設定はできません。
③ ▶■再生/停止ボタンを押す。
「OFF」（または「ON」)が点滅します。
④ –I◀◀または▶▶I+ボタンで「ON」を選ぶ。
⑤ ▶■再生/停止ボタンを押す。
「DATE」が点滅します。

3 アラーム再生する日を設定する。
●**日付（DATE）を指定する場合**
① 「DATE」点滅中に▶■再生/停止ボタンを押す。
「年」表示が点滅します。
② –I◀◀または▶▶I+ボタンで「年」の数字を選び、▶■再生/停止ボタンを押す。
「月」表示が点滅します。
③ –I◀◀または▶▶I+ボタンで「月」の数字を選び、▶■再生/停止ボタンを押す。
「日」表示が点滅します。
④ –I◀◀または▶▶I+ボタンで「日」の数字を選ぶ。
●**週に1回再生したい場合**
–I◀◀または▶▶I+ボタンで希望の曜日（「SUN」～「SAT」）を表示させる。
●**毎日決まった時刻に再生したい場合**
–I◀◀または▶▶I+ボタンで「DAILY」を表示させる。

4 ▶■再生/停止ボタンを押す。
「時」表示が点滅します。

5 アラーム再生する時刻を設定する。
① –I◀◀または▶▶I+ボタンで「時」の数字を選び、▶■を押す。
「分」表示が点滅します。
② –I◀◀または▶▶I+ボタンで「分」の数字を選び、▶■再生/停止ボタンを押す。
「アラームパターン」が表示されます。

6 アラームパターンを設定する。
① –I◀◀または▶▶I+ボタンで「B-PLAY」（アラーム音のあと、再生）または「B-ONLY」（アラーム音のみ鳴る）を選ぶ。
② ▶■再生/停止ボタンを押す。
「ALARM ON」が表示されます。

7 表示/メニューボタンを押す。
通常の画面に戻ります。アラーム設定された用件には「(•)」が表示されます。

設定した時刻になると、約10秒間アラーム音が鳴り、「B-PLAY」に設定されていると選んだ用件の再生が始まります。アラーム再生中は、「ALARM」が点滅します。再生が終わると、自動的に停止します。（アラーム再生した用件の頭に戻ります。）

アラーム再生された用件をもう一度聞くには
▶■再生/停止ボタンを押すと、その用件のはじめから再生されます。
用件が再生される前に止めるには
アラーム音が鳴っている間に■停止ボタンを押します。ホールドスイッチが入っていても止められます。
アラーム設定を解除するには
手順2-④で「OFF」を選んで▶■再生/停止ボタンを押します。
アラーム設定内容を変更するには
手順1～2を行い、現在設定されているアラーム再生日が表示されたら手順3～7で新しい内容で設定します。

ご注意
- 時計設定されていない場合は、「SET DATE」が表示され、アラーム設定できません。
- すでに他の用件でアラーム設定されているのと同じ時刻を設定しようとすると、「PRE SET」が表示され、アラーム設定はできません。
- 現在時刻より前の時間にアラーム設定しようとすると「BACK-D」が表示されアラーム設定はできません。
- アラーム再生中に別の用件の設定時刻になった場合、用件の途中で次のアラーム再生が始まります。
- 録音中にアラーム設定した時刻になった場合は、録音終了後にアラーム音が鳴ります。「(•)」のみが点滅します。
- 録音中にふたつ以上のアラーム設定時刻になった場合は、時刻の早い方の用件のみ再生されます。
- メニューモード中にアラーム設定時刻になった時は、メニューモードが中止され、アラームが鳴ります。
- アラーム再生を設定した用件を消去すると、アラーム設定は無効になります。
- アラーム再生を設定した用件を分割した場合、分けた点より前の部分のみアラーム再生されます。
- 再生音の大きさは、音量つまみで調節できます。ちょうど良い音量に設定してお使いください。
- 消去中にアラーム設定した時刻になった場合は、消去を終了したときに約10秒間アラーム音が鳴り、用件が再生されます。
- 一度設定したアラームは、アラーム再生を終了した後も設定は解除されません。

設定を変える

メニューで、録音モードやビープ音が設定できます。
① 表示/メニューボタンを1秒以上押してメニューモードに入る。
② ▶▶I+または–I◀◀ボタンで設定したいメニューを選び、▶■再生/停止ボタンを押す。
③ ▶▶I+または–I◀◀ボタンで項目を選び、▶■再生/停止ボタンを押して決定する。
④ 表示/メニューボタンを押してメニューモードを終了する。

メニュー	設定項目（*:初期設定）
MODE	録音モードを設定します。（HQ*/SP/LP）
SENS	マイク感度を設定します。（H*/L）
MOVE	用件を別のフォルダに移動します。
VOR	デジタルVORを設定します。（ON/OFF*）
EASY-S	ON: 再生中、▶▶I+ボタンで約10秒進み、–I◀◀ボタンで約3秒戻ります（イージーサーチ）。 OFF*:–I◀◀/▶▶I+ボタンで用件を送ります。
CONT	ON：フォルダ内の用件を続けて再生（コンティニュー再生）します。 OFF*：用件が終わるごとに止まります。
REC-OP	追加/上書き録音を設定します。（ON/OFF*）
SET DATE	時計を設定します。（06年1月1日*）
BEEP	ON*：操作時の受け付け確認音およびエラーのビープ音（ピピピ）が鳴ります。 OFF：操作時の受け付け確認音やエラー音が鳴りません（アラームは鳴ります）。
LED	ON*： 動作中はOPRランプが点灯または点滅します。 OFF：動作中もOPRランプは点灯しません。
ALARM	アラーム再生を設定します。（ON/OFF*）
FOLDER	フォルダを選択します。

表示を切り換える

表示/メニューボタンを押すと下記のように表示を切り換えることができます。停止時、録音時、再生時とも、設定しておいた表示モードになります。

☞ **現在時刻表示について**
停止中に3秒以上何も操作しないと、表示モードに関係なく、現在時刻表示になります。

カウンター表示モード
ひとつの用件の中の経過時間を表示します。
↓
残り時間表示モード
停止中、録音中は録音可能な残り時間を表示します。再生中は、その用件の残り時間を表示します。
↓
録音日時表示モード
用件を録音した日付けを表示します。（時計を合わせていない場合は「--年--月--日」と表示されます。）
↓
録音時刻表示モード
用件を録音した時刻を表示します。（時計を合わせていない場合は「--:--」と表示されます。）
↓
カウンター表示モードに戻る

▶その他

誤操作を防止する— ホールド機能

本機には、電源スイッチはありません。表示部には常に表示が出ていますが、電池の持続時間にはほとんど影響はありません。
誤動作を防止するには、ホールドスイッチを矢印の方向にずらします。「HOLD」が3回点滅し、すべてのボタンが操作できなくなります。
表示を消すには、停止中にホールドスイッチを矢印の方向にずらします。
操作できるようにするには、ホールドスイッチを矢印と反対の方向にずらしてください。

ご注意
録音中にホールドにした場合、録音を止めるには、まずホールドを解除してください。

☞ **ホールド中でもアラーム再生は止められます。**
アラーム再生時、アラーム音や用件再生を止めるときには■停止ボタンは使えます。（通常の用件再生は停止できません。）

パソコン接続キットを使う

付属のパソコン接続キットを使ってパソコンに接続すると、以下の操作ができます。詳しくは、Digital Voice Editorの取扱説明書をご覧ください。
- 本機で録音した用件をパソコンのハードディスクに保存する。
- パソコンに保存した用件を本機に転送する。
- パソコンに取り込んだ用件を電子メールに添付して、声のメールを送る。
- 音声認識ソフトウェア（別売り）と組み合わせて音声を文字化する。

家庭用電源につないで使う

長時間録音などをする場合は、家庭用電源（コンセント）で使うと、電池消耗の心配がなく便利です。

1 DC IN 3Vジャックに、別売りのACパワーアダプターAC-E30Lをつなぐ。

2 ACパワーアダプターをコンセントにつなぐ。

ご注意
- この製品には、別売りのACパワーアダプターAC-E30L（極性統一型プラグ・JEITA規格）をご使用ください。上記以外のACパワーアダプターを使用すると、故障の原因となることがあります。

極性統一型プラグ

- 録音中（OPRランプが赤に点灯·点滅中）やアクセス中（OPRランプがオレンジに点滅中）はACパワーアダプターを抜かないでください。データが破損するおそれがあります。
なお、用件数が多いと、「ACCESS」表示が長時間表示される場合がありますが、故障ではありません。表示が消えるまでお待ちください。

使用上のご注意

ノイズについて
- 録音中や再生中に本機を電灯線、蛍光灯、携帯電話などに近づけすぎると、ノイズが入ることがあります。
- 録音中に本機に手などが当たったり、こすったりすると、雑音が録音されることがあります。

ご使用場所について
- 運転中のご使用は危険ですのでおやめください。

取り扱いについて
- 落としたり、強いショックを与えたりしないでください。故障の原因になります。
- 次のような場所には置かないでください。
  –温度が非常に高いところ（60°C以上）。
  –直射日光のあたる場所や暖房器具の近く。
  –窓を閉めきった自動車内（特に夏期）。
  –風呂場など湿気の多いところ。
  –ほこりの多いところ。

万一故障した場合は、内部を開けずにお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

お手入れ
本体表面が汚れたときは
水気を含ませた柔らかい布で軽くふいたあと、からぶきします。シンナーやベンジン、アルコール類は表面の仕上げを傷めますので使わないでください。

故障かな?と思ったら

修理を依頼される前に、もう一度下記項目をチェックしてみてください。それでも解決しない場合、ご不明な点は、パーソナルオーディオ・カスタマーサポートページをご覧いただくか、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。なお、修理に出すと、録音した内容が消えることがあります。ご了承ください。

操作ボタンを押しても動作しない。
- 乾電池の⊕と⊖の向きが正しくない。
- 乾電池が消耗している。
- ホールドスイッチが入っている。(ボタンを押すと「HOLD」表示が3秒間点滅します。）

スピーカーから音が出ない。
- イヤーレシーバーが差し込まれている。
- 音量が絞られている。

「FULL」が点滅し、録音できない。
- メモリーがいっぱいになっている。
  →不要な用件を消去する。
- 選んだフォルダに99件録音されている。
  →別のフォルダを選ぶか、不要な用件を消去する。

追加／上書き録音できない。
- メモリー残量が不足している場合は追加／上書き録音できません。追加／上書きされる部分は、新たに録音される部分の録音が終わってから消去されるため、録音できるのは、現在の残り録音可能時間分のみです。

雑音が入る。
- 録音したとき、本機をこすってしまい、雑音が録音された。
- 録音中や再生中に本機を電灯線、蛍光灯、携帯電話などに近づけすぎると、ノイズが入ることがあります。
- 外部マイクで録音したとき、マイクのプラグが汚れていた。→プラグをきれいにクリーニングする。
- イヤーレシーバーで聞いているとき、イヤーレシーバーのプラグが汚れている。
  →プラグをきれいにクリーニングする。

録音レベルが小さい。
- メニューのマイク感度設定が「L」（低感度）になっている。
  →メニューのマイク感度設定を「H」（高感度）に切り換える。

録音が途中で止まる。
- デジタルVORが作動している。VORを使用しないときは、VORを「OFF」にする。

録音レベルが不安定。（音楽などを録音したとき）
- 本機は会議などの録音の際、自動的に録音レベルを調整するよう設計されているため、音楽などの録音には適していません。

時計表示が「--:--」になる。
- 時計を合わせていない。

「録音日時」表示が「--時 --月 --日」または「--:--」になる。
- 時計を合わせていない時に録音した用件には、録音した日付は表示されません。

「SET DATE」が表示され、アラーム再生が設定できない。
- 時計を合わせていない場合は設定できません。

「PRE SET」が表示され、アラーム再生が設定できない。
- すでに他の用件でアラーム設定されているのと同じ時刻を設定しようとすると、設定できません。

「BACK-D」が表示され、アラーム再生が設定できない。
- 現在時刻より前にアラーム設定はできません。

電池の持続時間が短い。
- 乾電池の持続時間は、音量つまみ「4」付近で内蔵スピーカーで再生した場合の目安です。使用条件によっては短くなる場合があります。

最大録音時間まで録音できない。
- ひとつのフォルダ内で、99件を超えると、それ以上用件は録音できません。
- HQ、SPとLPモードを混ぜて録音すると、最大録音時間はHQ、SPとLPモードの最大録音時間の間になります。
- 最小録音単位があるため、用件の数が多いと、端数が出ることにより実際の録音可能時間が最大録音時間より短くなることがあります。
- 最小録音単位より長い用件の場合でも、端数が出た場合は、同様に実際の録音時間よりも多く残り時間が減ることがあります。
- 以上の理由により、実際に録音した時間（カウンター表示）の合計と、「残り時間」を合計した時間が、最大録音時間より少なくなる場合があります。

用件分割ができない。
- ひとつのフォルダ内で、99件を超えると、用件分割はできません。
- 頻繁に用件分割をすると、用件分割ができなくなることがあります。

操作を受け付けるまで時間がかかる。
- 録音中に頻繁に用件分割してから次の操作をしたとき、OPRランプが点滅し、操作を受け付けるまでの時間が長くなることがありますが、故障ではありません。ランプが消えるまでお待ちください。

正常に動作しない。
- 乾電池を取り出して、もう一度入れ直す。

主な仕様

録音方式	内蔵フラッシュメモリー使用、容量256MB*、モノラル録音 * 実際の使用可能領域は、少なくなる場合があります。
最大録音時間	HQ: 29時間45分 SP: 79時間20分 LP: 130時間25分
周波数範囲	HQ: 260～6,800Hz SP: 220～3,400Hz LP: 220～3,400Hz
スピーカー	直径 28mm
入・出力端子	イヤホン（ミニジャック／モノラル） 出力：負荷インピーダンス 8～300Ω マイク（ミニジャック／モノラル） 入力：プラグインパワー対応、最小入力レベル 0.6mV USB端子
実用最大出力	250mW
電源	DC 3V 単4形アルカリ乾電池または充電式ニッケル水素電池2本使用
最大外形寸法	約34.6×109.5×18.0mm （幅／高さ／奥行き）最大突起部含まず
質量	70g（アルカリ乾電池LR03 2本含む）
付属品	表面「準備1：付属品を確かめる」をご覧ください。

別売アクセサリー
ACパワーアダプターAC-E30L／ニッケル水素電池専用急速充電器BCG-34HRES／充電式ニッケル水素電池単4形NH-AAA-4BF／エレクトレットコンデンサーマイクロホンECM-CZ10（ズームマイク）、ECM-TL1（電話録音用イヤホン型マイク）／オーディオコードRK-G64（抵抗入り）, RK-G69（抵抗なし）／アクティブスピーカー SRS-T88

本機は Windows® 98 Second Edition/Windows® Millennium Editionでの動作を確認しておりますが、マイクロソフト社のサポートが終了したことにより、OS に起因した問題などのサポートが行えなくなります。
今後アップグレードプログラムの提供など、従来どおりのサポートができない場合があります。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ
ソニーの相談窓口、お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について
当社ではICレコーダーの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店またはサービス窓口にご相談ください。

お問い合わせ窓口のご案内
本機についてご不明な点や技術的なご質問、故障と思われるときのご相談については、下記のお問い合わせ先をご利用ください。
- **ホームページで調べるには→ICレコーダー カスタマーサポートへ**
  (http://www.sony.co.jp/ic-rec-support/)
  ICレコーダーに関する最新サポート情報や、よくあるお問い合わせとその回答をご案内するホームページです。
- **電話・FAXでのお問い合わせは→ソニーの相談窓口へ（下記電話・FAX番号）**
  - 本機の商品カテゴリーは［ICレコーダー］です。
  - お問い合わせの際は、次のことをお知らせください。
    – 型名：ICD-P50
    – シリアルナンバー：電池ボックス内
    – ご相談内容：できるだけ詳しく
    – お買い上げ年月日

よくあるお問い合わせ、解決方法などはホームページをご活用ください。
http://www.sony.co.jp/support

使い方相談窓口
フリーダイヤル ··········0120-333-020
携帯電話·PHS·一部のIP電話 ··········0466-31-2511

修理相談窓口
フリーダイヤル ···········0120-222-330
携帯電話·PHS·一部のIP電話 ···········0466-31-2531
※取扱説明書·リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「303」+「#」
を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX（共通）0120-333-389
受付時間 月～金:9:00～20:00 土・日・祝日:9:00～17:00

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1